

会 務 月 報

第484号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■令和5年5月常任理事会

1. 日 時 令和5年5月31日(水) 13:30~15:25

2. 場 所 日事連会議室

3. 常任理事会構成者総数、定足数及び出席者数

常任理事会構成者総数14名、定足数8名、出席者数13名

4. 出席者及び欠席者の氏名

出席者

会 長 児玉耕二

副 会 長 岩本茂美、白井勇、木下賀之、上野浩也、
井手添誠、原 行雄

専務理事 居谷献弥

常任理事 村田良太、石井繁紀、相原清安、樋上雅博、
矢野敏明

事 務 局 前田、千浜、伊東、野出、三浦、吉田

欠席者

常任理事 内田 要

5. 議 長

児玉耕二会長より議長について諮り、井手添誠副会長を議長に
選任した。

6. 議事録署名人

児玉耕二会長、井手添誠副会長

7. 協議事項

(1) 第71回定時総会議案等について

①令和4年度事業報告

事務局より、資料1のうち報告事項の令和4年度事業
報告について、会議、事業概要、総務・財務、教育・情

報、業務・技術、広報・渉外、指導運営、建築士事務所
全国大会、創立60周年記念事業、法制度対応、青年部
会、住宅金融支援機構適合証明業務及び会員動静等
に関するそれぞれの事業報告の内容の説明がなされた。

②令和4年度決算承認の件

事務局より、資料1のうち第1号議案に該当する一般
会計及び適合証明業務登録機関特別会計の令和4年度
決算案について説明がなされた。

協議の結果、原案を了承し、資料1を6月通常理事会に
提案することを決定した。

(2) 第71回定時総会等のスケジュール及び運営について

事務局より資料2によって、6月26日の第71回定時
総会及び第139回建築士事務所協会全国会長会議等の
スケジュール、会場(改修工事のため従来利用していた銀
座東武ホテルから鉄鋼会館に変更)、Webによる双方向
の会議の実施方法及び運営等について説明がなされた。な
お、先の正副会長会で協議した結果、各単体会からの対面
での参加は、随行を含め2名までとした。

協議の結果、原案を了承し、資料2を6月通常理事会に提
案することを決めた。

(3) 事務所登録手数料等の要望について

上野事務所登録電子化対応WG主査より、資料3によって
次の趣旨の説明がなされた。

事務所登録手数料の引き上げ等、要望案・方法はWGでま
とめつつあるが、内容については議連幹部・国土交通省に相
談し、一定の理解を得ている。国土交通省からは、手数料等
の改定・設定は都道府県(県等)の条例によるものであり、
国土交通省が主導できるものではないが、県等からの要望が
ある程度あれば、助言や標準額を示せるとのことである。議
連幹部からは、全単体会が要望していると機関決定してもら
った方が議連として動きやすいと助言されたため、この要望
について6月の全国会長会議で議決したい。全単体会が統一
行動していただくよう協力をお願いする。

以下の発言がなされた。

白井副会長—この半年間ぐらい、議連幹部・国土交通省と精力的に相談し、非常に良い状況になってきた感触がある。各単位会で事情が異なるかと思うが、流れを作るというところまで来た。県等への説明資料等を用意できればと考えているので、ぜひ県等にうまく説明・要望するよう協力してほしい。

居谷専務理事—オンライン化に伴う手数料の見直しの根拠に、膨大な事務の増加が見込まれると挙げているが、最近、更新申請や変更届に関するオンライン方式というのが見えてきて、必ずしも事務が増加するとは言いきれない。事務所費等管理費の増加を一つの根拠にする等、見直さないといけない部分がある。単位会から県等へ要望後、県等から国土交通省に声を届けるようにしてほしい。それを受けて国土交通省が統一的・標準的な案を作るようにしないと難しい。少なくとも各ブロックの県等から上がるようにしてほしい。

樋上常任理事—具体的な工程と要望書を作成して、全国会長会議に諮るのか。それとも口頭で各ブロックに促すのか。

上野主査—資料にある要望書という形で全国会長会議に提出したい。ただし、変更する場合があることを付帯決議とさせてほしい。全国会長会議で議決後、県等に単位会から要望、県等から国土交通省に問い合わせが入り、秋ぐらいの臨時国会中に議連総会を開いて、議員からバックアップしてもらおうことを想定している。令和7年4月のオンライン化と同時に手数料の見直し等がされるようにと思っている。

相原常任理事—要は、県等に要望する際に、国土交通省に頼るように仕向けるということ。

石井常任理事—県議会ではなく、行政へ働きかければよい

のか。

上野主査—そのとおりだが、最終的には議会で条例改正してもらわなければいけない。

協議の結果、原案を了承し、6月通常理事会に提案することを決めた。

(4) 令和4年度単位会組織強化支援事業の支援金及び会員増強奨励金について

樋上総務・財務委員長より、資料4-1, 4-2によって次の趣旨の説明がなされた。

令和4年度単位会組織強化支援金決定額は1,145.7万円となった。採択事業63件(36単位会)に対し、費用負担が発生せず支援金がなしとなった事業及び事業を実施しなかった単位会もあり、実施完了事業は58件(32単位会)にとどまった。

また、単位会に対する会員増強奨励金は、再入会を除いた388構成員(@1万円)及び会員数が純増だった13単位会(@10万円)を対象、合計518万円とした。

協議の結果、原案を了承し、資料4-1, 4-2を6月通常理事会に提案することを決めた。

(5) 令和5年度単位会組織強化支援事業の採択案承認の件

樋上総務・財務委員長より、資料5によって次の趣旨の説明がなされた。

総務・財務委員会で検討の結果、過去に採択された事業が繰り返し申請された場合、支援金額を2年目75%・3年目50%に、過大な旅費は20万円を上限に調整し、34単位会・54件、支援金総額1,402万円を内示する案とした。

以下の発言がなされた。

相原常任理事—逓減率や旅費の上限を設けるなら、前もって知らせてほしい。

児玉会長—会の活性化等、趣旨を外れない様にうまく運営してほしい。

岩本副会長—採点の仕方を考える必要があるかもしれない。

協議の結果、原案を了承し、資料5を6月通常理事会に提

案することを決めた。

(6) 会員増強単位会表彰の受賞単位会について

事務局より、資料6によって次の趣旨の説明がなされた。

正副会長及び総務・財務委員長で構成する会員増強単位会表彰審査委員会で選考した結果、令和4年度の会員増加率及び増加数が上位である岩手会、福島会、神奈川会及び愛媛会を表彰対象としたい。表彰は鳥取・島根大会式典で実施する予定であるが、その際に増加率首位の岩手会に、会員増強への取り組み等について報告してもらう。

協議の結果、原案を了承し、4単位会を表彰対象として6月通常理事会に提案することを決めた。

(7) 年次功労者表彰の受賞者について

事務局より、資料7によって次の趣旨の説明がなされた。

今年度の年次功労者表彰候補者は、表彰規程に該当する単位会推薦35名である。表彰は鳥取・島根大会式典において実施する。

協議の結果、原案を了承し、資料7を6月通常理事会に提案することを決めた。

(8) 会員サービスの検討状況及び全国中小企業団体中央会への入会について

白井会員サービス検討WG主査及び樋上総務・財務委員長より、資料8によって次の趣旨の説明がなされた。

東京会、大阪会及び神奈川会では単位会に支援センター等を設置し、会員サービスに取り組んでいるが、WGでは日事連でできることを検討している。第一段階として、日事連が「全国中小企業団体中央会(中央会)」に入会することで、最大58%引きの保険料で加入できる団体保険制度及び福利厚生サービス制度を導入し、会員サービスの充実を図りたい。団体保険は「業務災害補償」及び「所得補償」を選定したい。構成員が加入すれば、加入実績に応じ制度普及推進費として還元される。福利厚生サービスは、1人月500円または1,000円の会費を負担することで、レジャー施設や宿泊の割引等が受けられるものである。中央会への年会費12万円の日事連負担が発生するが、初年度(来年3月迄)は

無料である。

協議の結果、原案を了承し、6月通常理事会に提案することを決めた。

(9) 令和6年度建築士事務所賠償責任保険の制度改定について

白井副会長より、資料9によって次の趣旨の説明がなされた。

現在の保険の基本プランは「設計業務」を対象としているが、6年度から「工事監理業務」を対象に加え、一層のサービス充実を図りたい。滅失・破損が発生した場合に補償、訴訟確定時か否かは問わない。

協議の結果、原案を了承し、6月通常理事会に提案することを決めた。

(10) 令和5年度建築士事務所キャンペーンの実施について

石井広報・渉外委員長より、資料10によって次の趣旨の説明がなされた。

共通テーマは、平成21年度から30年度まで使用していた「信頼のあかし 建築士事務所協会」とし、サブタイトルは各単位会にて設定してもらう。配付資料は「安心して家を建てるには」及び「国民への周知パンフレット」の2種類とする。なお、一般消費者に対するキャンペーン事業の実施経費として、引き続き各単位会に上限10万円を助成する。

協議の結果、原案を了承し、資料10を6月通常理事会に提案することを決めた。

(11) 賛助会員の入会について

事務局より資料11によって、オートデスク株式会社(1015万円)及びエーアンドエー株式会社(2030万円)より7月からの入会希望申し込みがあった旨説明がなされた。

協議の結果、原案を了承し、6月通常理事会に提案することを決めた。

(12) 令和7年度建築士事務所全国大会の主管会について

事務局より、資料12によって次の趣旨の説明がなされた。

令和3年7月に関東甲信越ブロック協議会より、6年度の建築士事務所全国大会(全国大会)は新潟会を主管とする

ことを決定したとの通知があったが、3年度の熊本大会の中止・延期を受け、ブロックの順番が1年繰り下がることとなった。よって、7年度の全国大会は新潟会を主管とすることとしたい。

協議の結果、原案を了承し、6月通常理事会に提案することを決めた。

(13) 6月通常理事会の議題等について

事務局より資料13によって説明がなされた。

相原常任理事より、令和5年3月理事会の議題は、常任理事会を経ないで決められていたがいかがなものかとの発言がなされ、児玉会長より、予算を審議するために常任理事会を3月から1月にずらしたためそのようなことになった。次の開催スケジュールは検討したいとの回答がなされた。

協議の結果、議事については原案の事項で、Webを併用して開催することを決めた。

8. 報告事項

(1) 業務報酬基準の改訂に向けた検討状況について

居谷専務理事より、資料14によって次の二つの受託事業の説明がなされた。

① BIMを導入していない事務所経営者を主対象としたセミナー、URリンクージュより、1,595万円

② BIM設計初級者を対象としたセミナー、国費より、3,000万円

(2) 会員・構成員異動報告

資料15により、令和5年1月から4月の単位会別構成員数及び賠償責任保険加入者数等が事務局より報告された。

(3) 後援名義等使用の催物について、事務局より資料16によって報告がなされた。

(4) 経過報告について、事務局より資料17によって報告がなされた。

<配付資料>

資料1：第71回定時総会報告事項及び決議事項（案）

資料2：第71回定時総会及び第139回建築士事務所全国会長会議等のスケジュール及び運営について

資料3：事務所登録電子化対応WGの検討状況について

資料4-1：令和4年度単位会組織強化支援事業採択事業総括表

資料4-2：令和4年度単位会組織強化支援事業単位会に対する会員増強奨励金（案）

資料5：令和5年度単位会組織強化支援事業総括表

資料6：会員増強単位会表彰について

資料7：年次功労者表彰について

資料8：会員サービス検討WGの検討状況について

資料9：日事連・建築士事務所賠償責任保険2024年度制度改定に向けて

資料10：令和5年度建築士事務所キャンペーン事業について

資料11：賛助会員入会について

資料12：令和7年度第47回建築士事務所全国大会の主管会について

資料13：令和4年6月通常理事会招集通知

資料14：BIM加速化事業の内 普及関係調査事業について

資料15：会員・構成員異動報告等

資料16：後援・協賛名義使用の件

資料17：経過報告

■令和5年6月通常理事会

1. 日 時 令和5年6月9日（金）13:30～15:30

2. 場 所 日事連会議室

3. 理事会構成者総数、定足数及び出席者数

理事会構成者総数35名、定足数18名、出席者数30名

4. 出席者及び欠席者の氏名

出席者

会 長 児玉耕二

副 会 長 岩本茂美、白井勇、木下賀之、井手添誠、原行雄

専務理事 居谷献弥

常任理事 村田良太、石井繁紀、相原清安、樋上雅博、
内田要

理 事 安藤春久、安藤正道、石崎和志、伊藤公績、

井上泉、大村修、小倉凡、加藤彰、佐々木宏幸、
柴田淳一郎、須田正美、瀧本裕之、千鳥義典、
富樫亮、仲摩和雄、林田康孝、本澤崇、本間裕之

監 事 高橋清秋、林貞義

事 務 局 前田、伊東、野出、三浦、吉田

欠席者

上野浩也副会長、矢野敏明常任理事、川元茂理事、
佐藤啓智理事、佐野吉彦理事

5. 議 事

(1) 議長の選任

児玉耕二会長が議長に選任された。

(2) 議事録署名人の確認

定款第45条第2項の規定により、議事録署名人は以下の者
であることが確認された。

児玉耕二会長、高橋清秋監事、林貞義監事

(3) 協議事項

1) 第71回定時総会議案等の承認の件

①令和4年度事業報告

居谷専務理事及び各常置委員会委員長より、資料1
のうち報告事項の令和4年度事業報告について、会議、
事業概要、総務・財務、教育・情報、業務・技術、広報・
渉外、指導運営、建築士事務所全国大会、創立60周年
記念事業、法制度対応、青年部会、住宅金融支援機構適
合証明業務及び会員動静等に関するそれぞれの事業報
告の内容の説明がなされた。

なお、この報告は一般社団・財団法人法第91条第2
項、定款第26条第8項に規定する理事の職務の執行状
況報告を兼ねるものである旨、事務局より説明がなされ
た。

②令和4年度決算承認の件

居谷専務理事より、資料1のうち第1号議案に該当す
る一般会計及び適合証明業務登録機関特別会計の令和
4年度決算案について説明がなされた。

続いて、高橋監事より、令和4年度決算について監査

報告がなされた。

以下の発言がなされた。

富樫理事—会員動静について平成からの構成員数の変化
について説明があったが、ペーパーベースで資
料を提供してもらえないか。→ 資料配布
樋上総務・財務委員長—支出を削減するだけでなく収入を
増やしていかないといけない。方策等を総務・
財務委員会で検討していきたい。

白井副会長—構成員の建賠保険料に応じて単位会に事務
手数料を還元しているので、募集等に協力して
ほしい。

議長より、以上の二項目について諮ったところ、第71回
定時総会の報告事項及び議案とすることを承認した。

2) 第71回定時総会等のスケジュール及び運営の承認の件

事務局より資料2によって、6月26日の第71回定時総
会及び第139回建築士事務所協会全国会長会議等のスケ
ジュール、会場(改修工事のため従来利用していた銀座東武
ホテルから鉄鋼会館に変更)、Webによる双方向の会議の
実施方法及び運営等について説明がなされた。なお、先の正
副会長会及び常任理事会で協議した結果、各単位会からの
対面での参加は、随行を含め2名までとした。

議長より、第71回定時総会等のスケジュール、運営及び
立食による懇親会等の実施について諮ったところ、異議なく
これを承認した。

3) 事務所登録手数料等の要望承認の件

白井副会長より、資料3によって次の趣旨の説明がなされ
た。

建築士事務所登録手数料等の見直しについて国に働きか
けるよう、全国会長会議やブロック協議会等から意見・要望
が出されていたことを受け、事務所登録電子化対応WGで検
討を進めてきた。国土交通省に相談したところ、都道府県か
ら国に、手数料体系の見直し・標準的な手数料の設定につい
て助言を求められれば調整役として動いてもよいとのことで

ある。また、議連幹部からは、全単位会が賛同するとの決議をした方がよいとの助言を受けた。

要望項目は次の5つを考えている。

- ・事務所登録手数料等の引き上げ
- ・一級と二級・木造建築士事務所の手数料を同額に
- ・変更届の手数料設定
- ・設計等の業務に関する報告書の有償化
- ・データベース及びオンライン受付システム利用料の行政負担

今回示した要望書の雛形は検討の余地があり、最終版でないことを理解してほしい。全国会長会議で説明後、各ブロック協議会の会議に参加し、改めて詳細に説明したい。

以下の発言がなされた。

伊藤理事—建築士法に建築士事務所協会が規定された時に、建築士事務所はすべて協会に入会することを前提とされたと思った。設計等の業務に関する報告書を無償で受け付けているが、会員外の事務所の受付経費を、ある意味会員の会費で賄っていることになりおかしい。強制加入を働きかけた方がよいのでは。

白井副会長—強制加入等の法改正については、法制度等対応特別委員会で検討している。手数料の見直しについては具体的に要望が出されており、これを先に進めたい。

議長より、事務所登録手数料等の要望について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

4) 令和4年度単位会組織強化支援事業の支援金及び会員増強奨励金の決定承認の件

樋上総務・財務委員長より、資料4-1、4-2によって次の趣旨の説明がなされた。

令和4年度単位会組織強化支援金決定額は1,145.7万円となった。採択事業63件(36単位会)に対し、費用負担が発生せず支援金がなしとなった事業及び事業を実施しなかった単位会もあり、実施完了事業は58件(32単位

会)にとどまった。

また、単位会に対する会員増強奨励金は、再入会を除いた388構成員(@1万円)及び会員数が純増だった13単位会(@10万円)を対象、合計518万円とした。

議長より、令和4年度単位会組織強化支援事業の支援金及び会員増強奨励金について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

5) 令和5年度単位会組織強化支援事業の採択案承認の件

樋上総務・財務委員長及び白井副会長より、資料5によって次の趣旨の説明がなされた。

総務・財務委員会で検討の結果、過去に採択された事業が繰り返し申請された場合、支援金額を2年目75%・3年目50%に、過大な旅費は20万円を上限に調整し、34単位会・54件、支援金総額1,402万円を内示する案とした。資料5で、埼玉会の申請事業の備考欄に「申請内容が実施とかけ離れている」と記載されているが、埼玉会会長より「工業高校建築科の生徒より職場体験の申し込みが順調になされている」との指摘を受け確認したところ、実態とかけ離れているとは言えないので削除してほしい。

以下の発言がなされた。

白井副会長—この事業も3年目になるが、精神的・意欲的な企画、対外的にもPRできるような企画もあった。今後の方向性としてはよいと考えられるので、今後もよろしくお願ひしたい。

村田常任理事—この事業は、令和3年度から年2,000万円で5年間ということでスタートしたが、5年で累計1億円に達しなかった場合、期間が優先するのか金額が優先するのか。

白井副会長—日事連でできるか分からないが、事業等を全国展開するよう、見直しや整理の議論をしている。このような費用を使って全国的に広報するとか、ある単位会の成功事例を全国展開できるよう、全国会長会議等で発表してもらいたい。期間・金額については、今後の検討課題

としたい。

議長より、令和5年度単位会組織強化支援事業の採択案について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

6) 会員増強単位会表彰の承認の件

事務局より、資料6によって次の趣旨の説明がなされた。

正副会長及び総務・財務委員長で構成する会員増強単位会表彰審査委員会で選考した結果、令和4年度の会員増加率及び増加数が上位である岩手会、福島会、神奈川会及び愛媛会を表彰対象としたい。表彰は鳥取・島根大会式典で実施する予定であるが、その際に増加率首位の岩手会に、会員増強への取り組み等について報告してもらう。

議長より、岩手会、福島会、神奈川会及び愛媛会を会員増強単位会表彰の対象とすることについて諮ったところ、異議なくこれを承認した。

7) 年次功労者表彰の受賞者承認の件

事務局より、資料7によって次の趣旨の説明がなされた。

今年度の年次功労者表彰候補者は、表彰規程に該当する単位会推薦35名である。表彰は鳥取・島根大会式典において実施する。

議長より、年次功労者表彰について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

8) 全国中小企業団体中央会への入会承認の件

白井会員サービス検討WG主査より、資料8によって次の趣旨の説明がなされた。

東京会、大阪会及び神奈川会では単位会に支援センター等を設置し、会員サービスに取り組んでいるが、WGでは日事連でできることを検討している。第一段階として、日事連が「全国中小企業団体中央会(中央会)」に入会することで、最大58%引きの保険料で加入できる団体保険制度及び福利厚生サービス制度を導入し、会員サービスの充実を図りたい。団体保険は「業務災害補償」及び「所得補償」を選定したい。構成員が加入すれば、加入実績に応じ制度普及推進費として還元される。福利厚生サービスは、1人月500円または1,000円の会費を負担することで、レジャー施設や

宿泊の割引等が受けられるものである。中央会への年会費12万円の日事連負担が発生するが、初年度(来年3月迄)は無料である。

議長より、中央会への入会について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

9) 令和6年度建築士事務所賠償責任保険の制度改定承認の件

白井副会長より、資料9によって次の趣旨の説明がなされた。

現在の保険の基本プランは「設計業務」を対象としているが、新たに「工事監理業務」を対象に加え、一層のサービス充実を図りたい。滅失・破損が発生した場合に補償、訴訟確定時か否かは問わない。

高橋監事より、裁判で設計監理の責任と判決が出た場合でも、建賠保険事故審査委員会の審査で保険金が出ないというようことがあり得るのかとの質問がなされ、白井副会長より、裁判の判決と保険会社の査定は別。事故審査委員会ですっきり決めていくことになるとの回答がなされた。

議長より、令和6年度建築士事務所賠償責任保険の制度改定について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

10) 令和5年度建築士事務所キャンペーンの実施承認の件

石井広報・渉外委員長より、資料10によって次の趣旨の説明がなされた。

共通テーマは、平成21年度から30年度まで使用していた「信頼のあかし 建築士事務所協会」とし、サブタイトルは各単位会にて設定してもらう。配付資料は「安心して家を建てるには」及び「国民への周知パンフレット」の2種類とする。なお、一般消費者に対するキャンペーン事業の実施経費として、引き続き各単位会に上限10万円を助成する。

議長より、令和5年度建築士事務所キャンペーンの実施について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

11) 賛助会員の入会承認の件

事務局より資料11によって、オートデスク株式会社(1口15万円)及びエーアンドエー株式会社(2口30万円)よ

り7月からの入会希望申し込みがあった旨説明がなされ、議長より、賛助会員入会について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

12) 令和7年度建築士事務所全国大会の主管会承認の件

事務局より、資料12によって次の趣旨の説明がなされた。

令和3年7月に関東甲信越ブロック協議会より、6年度の建築士事務所全国大会(全国大会)は新潟会を主管とすることを決定したとの通知があったが、3年度の熊本大会の中止・延期を受け、ブロックの順番が1年繰り下がることとなった。よって、7年度の全国大会は新潟会を主管とすることとした。

議長より、令和7年度建築士事務所全国大会の主管会について諮ったところ、異議なくこれを承認した。

(4) 報告事項

1) 会員・構成員異動報告

事務局より資料13によって、令和5年3月から4月の単位会別構成員数及び賠償責任保険加入者数等の報告がなされた。

(5) その他

以下の発言がなされた。

本澤理事—資料9に、工事監理業務の保証対象は「訴訟確定時か否かは問わない」との記載があるが、さらに弁護士費用のオプションまたは建築に精通している弁護士の紹介等、盛り込んでいくことは可能なのか。

白井副会長—現状でも、弁護士への相談については年3回まで無料としている。保険のオプションではないが、弁護士等士業を紹介するようなシステムを会員サービス検討WGで検討している。

伊藤理事—鳥取・島根大会への参加者を少なめにしてほしいと聞いたが、どれくらいにすればよいか。

事務局—特に参加人数を絞ってほしいとか、そういう話が出ていない。わかりかねる。

井手添副会長—単位会へのアンケートでは900名足ら

ずで、まだまだ足りない。通常1,300名から1,500名参加している。こぞって参加してほしい。

<配付資料>

資料1：第71回定時総会報告事項及び決議事項(案)

資料2：第71回定時総会及び第139回建築士事務所全国大会会議等のスケジュール及び運営について

資料3：事務所登録電子化対応WGの検討状況について

資料4-1：令和4年度単位会組織強化支援事業採択事業総括表

資料4-2：令和4年度単位会組織強化支援事業単位会に対する会員増強奨励金(案)

資料5：令和5年度単位会組織強化支援事業について

資料6：会員増強単位会表彰について

資料7：年次功労者表彰について

資料8：会員サービス検討WGの検討状況について

資料9：日事連・建築士事務所賠償責任保険2024年度制度改定に向けて

資料10：令和5年度建築士事務所キャンペーン事業について

資料11：賛助会員入会について

資料12：令和7年度第47回建築士事務所全国大会の主管会について

資料13：会員・構成員異動報告等

■第139回 建築士事務所協会全国会長会議議事概要

1. 日 時 令和5年6月26日(月) 13:30~14:40

2. 場 所 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
鉄鋼会館801号室

3. 会議の構成者数及び出席者数

構成者数 単位会会長47名

出席者数 47名(内、委任状提出：山梨会・表決委任を受けた者の氏名 奥村一利)

4. 出席者の氏名

正会員

北海道会 庄司雅美、青森会 加藤 彰、岩手会 佐々木章、
宮城会 高橋清秋、秋田会 村田良太、山形会 原 行雄、
福島会 安藤正道、茨城会 舟幡 健、栃木会 佐々木宏幸、
群馬会 石井繁紀、埼玉会 佐藤啓智、千葉会 井桁正昭、
東京会 千鳥義典、神奈川会 平山正義、新潟会 本間裕之、
長野会 土屋長命、山梨会 奥村一利、富山会 稲葉伸一、
石川会 小林正澄、福井会 木下賀之、岐阜会 荒井誠二、
静岡会 金丸智昭、愛知会 安藤春久、三重会 相原清安、
滋賀会 大村 修、京都府 上野浩也、大阪会 樋上雅博、
兵庫会 柏本 保、奈良会 阪口龍平、和歌山会 尾添信行、
鳥取会 井手添誠、島根会 矢野敏明、岡山会 山田 暁、
広島会 豊田隆雄、山口会 小倉 凡、徳島会 立花 薫、
香川会 鉄川裕崇、愛媛会 林 貞義、高知会 田中健一、
福岡会 岩本茂美、佐賀会 内田 要、長崎会 木場耕志、
熊本会 南 孝雄、大分会 仲摩和雄、宮崎会 村社俊弘、
鹿児島会 八反田淳一、沖縄会 武岡光明

役員

会 長 児玉耕二
副 会 長 白井 勇
専務理事 居谷献弥
理 事 伊藤公績、井上 泉、佐野吉彦、柴田淳一郎、
瀧本裕之、富樫 亮、本澤 崇
事 務 局 前田、千浜、伊東、野出、三浦

5. 挨拶

児玉耕二会長より、以下の趣旨の挨拶があった。

- ・今年10月に開催予定の鳥取・島根大会は、初めての2単位会による共管での開催となる。協力して開催する難しさはある中で、様々な工夫をしてもらいながら、中四国ブロック及び2単位会会員の協力を得て準備を進めてもらっている。
- ・全国大会の際に全単位会旗を舞台等で掲げることが慣例になっているが、一般・公益社団法人へ移行（名称変更）後の対応（旗の新調）は単位会に委ねていた。この機会に一押し、アフターコロナ時代に全国大会をより盛り上げる意

味も込めて寄贈にご協力いただきたい。

6. 単位会新会長紹介

司会者（前田事務局長）より、前回令和4年12月14日の全国会長会議以降に異動のあった、以下の単位会新会長の紹介がなされた。

千葉会・井桁正昭、東京会・千鳥義典、神奈川会・平山正義、岡山会・山田暁

7. 議長・副議長の選任

司会者より、議長及び副議長の選任について諮ったところ、議長に井手添誠鳥取会会長が、副議長に原行雄山形会会長が選任された。

8. 議事録署名人の選任

議長より、議事録署名人の選任について諮ったところ、議長に一任され、井手添誠議長、岩本茂美福岡会会長及び上野浩也京都府会会長を議事録署名人に選任した。

9. 報告事項等

(1) 会員サービスの検討状況等について

白井勇会員サービス検討WG主査より、資料1によって、会員サービスの検討状況等についての概要等について次の説明がなされた。

構成員に対する設計・監理等の業務面における支援や建築士事務所の開設から廃業、事業承継等の経営面における支援等を行う「マネジメント支援センター」を設立した東京会をはじめ、単位会が会員等に行っているサービスを例とし、会員が求めるサービスや会員になることの見えるメリット等について検討を行い、第一段階として、日事連が「全国中小企業団体中央会（中央会）」に入会することで、安価で加入できる団体保険制度を導入し、会員サービスの充実を図りたい。

団体保険の内容は「業務災害補償制度」と「所得補償制度」を選定し、構成員が加入すれば、加入実績に応じ制度普及推進費として還元される。中央会の年会費12万円が発生するが、日事連が負担する。

今後の対応として、保険の募集については日事連サービスの協力を得て実施する。単位会においては、説明会開催や会員へ

のメール発信等、また新規会員を募集する際にも本制度の利用促進を図っていただきたい。

今後、団体保険制度以外のサービス項目等についても整理し、次の全国会長会議において報告したい。

10. 協議事項

(1) 第71回定時総会議題について

①令和4年度事業報告について

居谷献弥専務理事より、第71回定時総会議案書に基づき、令和4年度事業報告の説明がなされた。

②令和4年度決算案について

居谷献弥専務理事より、同議案書に基づき、第1号議案に該当する一般会計及び適合証明業務登録機関特別会計の令和4年度決算案の各項目内容について説明がなされた。

(2) 事務所登録手数料にかかる都道府県への要望について

上野浩也事務所登録電子化対応WG主査より、資料2によって、事務所登録手数料にかかる都道府県への要望について説明がなされた。

「建築士事務所登録手数料等の見直し」について国等へ働きかけるよう、全国会長会議及びブロック協議会等から意見・要望が出されたが、当該手数料に関しては県等の条例で規定されており、国土交通省の権限等が及ぶものではないため、なかなか前進できなかった。国土交通省と議論を重ねた結果、都道府県から相談があれば、状況等は聞いてもらえるということになった。全国会長会議で決議し、私か白井委員がブロック協議会に出向き、県等への要望方法等具体的に説明し意見等を伺うので、単体会会長におかれては、都道府県知事への要望・交渉の対応をお願いしたい。

(事務所登録手数料等にかかる要望についての決議案)

建築士事務所の登録等の手続きのオンライン化に伴い、法改正に伴う関係事務の増加、消費税率の引き上げ及び物価の上昇の影響や法定福利費・管理費と必要経費の増加が事務所登録手数料に適正に反映されていないことに加え、手数料に係る都道府県間の乖離もあり、各指定事務所登録機関として、その業務運営に際し、財政的な負担が増大し支障をきたしている。今回

のオンライン化に伴う必要経費の増加も考慮の上、登録事務の安定的な運営・維持を行うことのできる適正な手数料への改定を求めたい。

登録制度が建築士法に基づく同一の事務手続きであることから、国(国土交通省)に対し、手数料の枠組みの見直し及び標準的な手数料の設定について助言するよう求めることで、都道府県の建築士事務所協会(連合会)として決議したい。要望事項として①事務所登録等手数料等の改定、②変更届の手数料化、③一級、二級・木造建築士事務所登録手数料の同額化、④設計等の業務に関する報告書の有償化、⑤データベース及びオンライン受付システム利用料の行政負担の5項目を想定している。

単体会会長より以下の趣旨の発言等がなされた。

(千葉県・井桁正昭会長)

各単体会が納得する要望にするには、一定の金額を明示し、統一した金額を提示・要望するということがよいのか。あるいは地域差により金額が異なることもやむを得ないという考えでよいのか。

⇒(上野浩也事務所登録電子化対応WG主査)

国土交通省で一定の額を決めてもらえればよいが、県等の条例で規定されており、国土交通省の権限等が及ぶものではない。国土交通省としては、都道府県から相談があれば、事情等を聞き調整すると聞いている。

(石川会・小林正澄会長)

変更届の届出は平成26年に義務付けされたが、石川会では、変更手続きの取扱いは非常に少なく、ここに手数料を設定すると、変更手続きをためらってしまうのではないかという懸念がある。例えば独立する社員が、この変更届を出さないと事務所開設ができない等という問題があり、この変更届を出しても出さなくてもよいという本来間違っている認識がある中で、更に手数料がかかるとますます変更届が出てこなくなると懸念する。

⇒(上野浩也事務所登録電子化対応WG主査)

変更届については、所属建築士の変更が生じた場合は届出の義務があり、届出を怠ると建築士法違反にあたる。

協議の結果、単体会が都道府県に対し、要望及び交渉を進め

ることを決議した。

11. その他

矢野敏明島根会会長より、10月13日開催予定の鳥取・島根大会へ、多くの会員に参加してほしいとの呼びかけがなされた。

<配付資料>

資料1：会員サービスの検討状況等について

資料2：事務所登録手数料等にかかる要望について 全国会長会議決議案

第71回定時総会議案書

■第71回定時総会議事録

1. 日時 令和5年6月26日(月) 15:10~15:55

2. 場所 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

鉄鋼会館801号室

3. 総会構成者総数、定足数及び出席者数

総会構成者総数 47人

定足数 24人

出席者数 47人(うち、表決委任状提出1単位会)

○表決委任を受けた者の氏名 山梨会 奥村一利

4. 出席者の氏名

(1) 正会員・指定代表者の氏名

北海道会・庄司雅美 青森会・加藤 彰

岩手会・佐々木章 宮城会・高橋清秋

秋田会・村田良太 山形会・原 行雄

福島会・安藤正道 茨城会・舟幡 健

栃木会・佐々木宏幸 群馬会・石井繁紀

埼玉会・佐藤啓智 千葉会・井桁正昭

東京会・千鳥義典 神奈川会・平山正義

新潟会・本間裕之 長野会・土屋長命

山梨会・奥村一利 富山会・稲葉伸一

石川会・小林正澄 福井会・木下賀之

岐阜会・荒井誠二 静岡会・金丸智昭

愛知会・安藤春久 三重会・相原清安

滋賀会・大村 修 京都会・上野浩也

大阪会・樋上雅博 兵庫県・柏本 保

奈良会・阪口龍平 和歌山会・尾添信行

鳥取会・井手添誠 島根会・矢野敏明

岡山会・山田 暁 広島会・豊田隆雄

山口会・小倉 凡 徳島会・立花 薫

香川会・鉄川裕崇 愛媛会・林 貞義

高知会・田中健一 福岡会・岩本茂美

佐賀会・内田 要 長崎会・木場耕志

熊本会・南 孝雄 大分会・仲摩和雄

宮崎会・村社俊弘 鹿児島会・八反田淳一

沖縄会・武岡光明

(2) 役員

会 長 児玉耕二

副会長 白井 勇

専務理事 居谷献弥

理 事 伊藤公績、井上 泉、佐野吉彦、柴田淳一郎、
瀧本裕之、富樫 亮、本澤 崇

5. 司会 事務局長 前田敏明

6. 会議の成立

司会者より、正会員47単位会全単位会(書面表決書提出者を含む)が出席し、定款第19条の定足数を満たしており、会議が成立している旨報告がなされた。

7. 議長及び副議長の選出

司会者より、議長及び副議長の選出について諮ったところ、拍手多数により次の者が選出された。

議 長 木下賀之福井会会長

副議長 岩本茂美福岡会会長

8. 議事録署名人の選任

議長より、議事録署名人の選任について諮ったところ、拍手多数により、議長・木下賀之、井手添誠鳥取会会長及び原行雄山形会会長が選任された。

9. 議 事

(1) 報告事項1 令和4年度事業報告

居谷献弥専務理事より、第71回定時総会議案書(以下「議案書」という。)3ページから28ページの内容について報告がなされた。

(2) 第1号議案 令和4年度決算承認の件

居谷献弥専務理事より、議案書の29ページから37ページの内容の説明及び提案がなされた。

なお、34ページの適合証明業務登録機関特別会計正味財産増減計算書及び37ページの正味財産増減計算書内訳表の数字に一部誤りがあり、居谷献弥専務理事より配布した修正後のものに差し替えるよう依頼がなされた。

続いて、高橋清秋監事より、議案書38ページに記載のとおり監査報告がなされた。

議長より第1号議案の承認について採決したところ、異議なく、議案書のとおり承認した。

10. 職員永年勤続表彰

勤続30年を迎えた前田敏明事務局長に、児玉耕二会長より表彰状を授与した。

■第10回 業務開発専門委員会 議事概要

日時 令和5年6月6日(火) 14:00~16:00

会場 日事連会議室

出席者 委員長 内田 要

委員 加藤 彰、安藤正道、千鳥義典、富樫 亮、
本間裕之、安藤春久、大村 修

事務局 居谷、千浜、野出、吉田

{配付資料}

第9回業務開発専門委員会議事概要

資料1:東京会のデータベースについて

議 事

1. 建築士事務所のネットワークづくりについて

【東京会のデータベースについて】

○東京会の会員データベースについて富樫委員より説明された。

おもな内容は以下の通り。

- ・会員データベースの再構築は、会員情報事務管理の効率向上、

顧客・会員サービスの向上、新規サービスの提供による協会ブランド力の向上を目的として行った。

- ・市民・顧客向け建築士事務所の情報提供拡充として東京会HPで様々な条件で会員事務所の検索をできるようにしている。

- ・今後の新規サービスの一環として協力事務所紹介サービス等を検討している。

- ・費用は委員会費用も含めて300万円程度

- ・デメリットは、費用と現状データの移設

- ・人と人とのコネクションとして協力事務所紹介サービスを検討している。このデータベースを使ってどのようなネットワークをつくるか。他の単位会データとの連携も考えられる。

○次のような意見交換を行った。

- ・青森会では設備での人手不足により設備設計事務所協会とも情報交換できないかと相談している。東京会のようなデータベースを作ればよいと感じた。

- ・費用の問題も含めて今後、具体的にどうしていくか。ネットワーク、つながりとの関係がどうなるのか。

- ・東京会では、設備、構造、積算事務所と協議会をつくっている。協力事務所紹介サービスはどの協会も賛成してくれている。単位会ともつないでいかないといけない。東京会と同じデータベースのシステムネットワークを組むことで容易になるのではないかと。

- ・設備と構造の会長と話をした。システムが出来上がったら違うのかもかもしれないが、設備協会に入っていない人のほうが多い。実際の運用にどう生かせるか。また事務所協会に入っていない人をどう取り込むか、難しいがやっていく事を話した。

- ・費用の問題も出てくる。事務関係の合理化が前提となるか。建築賞などは今のデータベースで作っていかないといけない。これからの課題か。他会の状況を見ながら進めていきたい。内容的にはとても良いと思うので少しずつでも進めていきたい。

- ・最終的にはネットワーク化すること、そのためのデータベースをつくることは大事。データベースができれば将来的にいろいろ効率がよくなるのではないかと。設備協会、構造協会ともつないでいける。新入会員などはインターネットに通じているので

ネットワークができればいろいろな面で使える。

会員が1,600人ということであるがその中で入力できない方のパーセンテージを教えてください。移行はエクセルデータを転用することでできるのかも知りたい。

- データベースを使わない方は3%~5%。当初は難しそうであったが割と簡単だった。移行については、大半のデータがスムーズに移行できた。データのメンテナンスができていなかったため、移行したデータが古かったという問題はあった。データベースとしては小規模。

【日事連としてどのように取り組むか】

- データベースを作ることは基本。東京会で作っているデータベースにあやかりたい。日事連としてどういう形で進めるか。
- 連合会として会員のデータベースを一括管理するような発想はなかったので日事連としてどうするかについてはあまり考えていなかった。日事連として個々の構成員へのアクセスとしてはBIMパートナーなどもあるが、今のところ単位会の方からまとめた方がよいのではないかとと思われる。
- ネットワークやデータベースは避けて通れない。ネットワークがきちんとできていないと技術があっても使えない。メリット、デメリットということではなく中央突破しないといけない。東京会できちんとしたデータベースをつくってもらっているので、各単位会で作るのはもったいない。日事連でガイドラインや方向性を出してほしい。個々の単位会が東京会にお願いするのではなく、統一して出来たらよいと思う。
- それぞれの単位会でデータベースをつくってもあまり効果がない。日事連で共通のカテゴリーをつくってはどうか。
- 東京会のデータベースのシステムを使うことができればありがたい。共通のもので作っておけば応用できる。
- 東京会のデータベースの件は当委員会として上に提案することになるのか。
- 委員会として年度内にそのような方向でまとめて全国的にやりましょうということにするか、意見交換にとどめるか。委員会としてどう動くか。
- データベースを単位会で独自に作るのは大変。東京会のデータ

ベースを基底として最終的にはネットワークづくりに生かしていく。

- 皆さんが言われる通り日事連として共通のシステムができるかということになると思う。東京会の協力事務所紹介サービスはそれほど時間がかかるものではないので、紹介できる段階になったら紹介する。
- 日事連としてどうするかであるが、日事連は各単位会の連合会となる。その枠組より単位会としてどうするかになると思う。日事連は連合会としてのかかわりとなる。システム会社には全国展開があるかもしれないということは確認しているが、業務が集中してしまうことは心配。
- 建築士法の帳簿の閲覧には対応しているのか。
→対応している。
- 一般公開されているのは東京会のHPのどの部分になるのかを具体的に教えてください。
→会員事務所を検索できるページがあり、そこではデータベースに登録されている内容を引いてくるようになっている。得意分野などからも検索できる。

【当委員会としてどのように進めていくか】

- 委員の意見としてはこのようなデータベースはあったらよいという意見であったが、委員会としてこれからどう進めていくか。
- 各単位会に協力してもらいデータベースを進めていくことを提言できれば。
- どのような条件でシステムを提供してもらえるのか。費用やテクニカルな面での条件などはどのようなものなのか。
- コンサルは素人にサービスを提供している。こうしたい、こうなっては困るということをコンサルに伝えた。東京会のシステムを流用するのであれば、システムに各単位会の会員情報を流すということになる。日事連の助成金なども活用できるのではないかと。
- いま、いろいろな省庁でデジタル化の助成金があるので利用できるのではないかと。
- 青森会でもデータベースを手掛けていきたい。どういう手段・方法があるか。コンサルに相談するとのことであるが実際には

どう進めていけばよいか。

- ・データベースとしては全国レベルで使えるが、各単位会でオプションもある。最終的にはネットワークや顧客に対するオプションも考えていく。
- ・委員会の中だけで終わってしまっただけでは残念。実現に向けての具体的な進め方を模索していく。
- ・何とか実際に進めていけるような方法があればと思う。ほとんどの方にメリットがある。実際には費用がかかるのでどこまで力添えしてもらえるか。
- ・東京会にはどれくらい協力してもらえるか。
- ・協力はする。どういう段取りで単位会の足並みをそろえていくか。4か月後にとりかかると決めて、次の4か月で開発の方が単位会との打合せを始め、その後4か月でデータ入力をするようなスケジュールになるのか。それぞれの単位会と一緒にやろうという合意をどうとりつけるか。
- ・システムは既にあるので、とりかかれば早いのではないか。
- ・そこまで話がまとまれば、専門委員会は「1つのアウトプットとして単位会のデータベースに共通の基盤をつくることを日事連は支援する」ということで提言をまとめることも考えられる。ただ当初の目的は単位会としての情報提供・公開であったので、そのためにデータベースが必要ということでもとめていくか。ネットワークということを考えるのであればどのような形のデータベースが望ましいか、具体的な情報公開のあり方についても議論してまとめていかないといけない。
- ・データベースは最初の一步、そこから新しい道筋を見つけていく。同じデータベースを使えば同じ工夫ができる。千葉会・神奈川会の取り組み、活動の中でどのようなことが起きているか。次回の委員会で骨子をつくって来年、提言が出せればよいと思う。
- ・一つ注意しないといけないのは、ネットワークを組むときに工夫がいることにより、既にデータベースを持っている単位会を排除するわけではないということ。
- ・最初、データベースをつくらうとしたときに事務局負担を減らそうとして会員データベースをつくらうとしていたが、いろいろ

るな要素やニーズが増えていって全部やるが大変となった。最初は基本的な部分はシンプルにした方がよい。

- ・次回、提言化、次々回に提言内容の調整を行うことで進めていきたい。

次回委員会 令和5年10月6日(金) 14:00~16:00

■第5回会誌編集専門委員会 議事概要

日時 令和5年6月7日(水) 14:00~15:23

場所 日事連会議室

出席者 委員長 荻窪伸彦
副委員長 宇塚幸生
委員 田端友康、鈴鹿美穂、小泉 厚、福山雅也
オブザーバー (株)ジェイクリエイト 城市奈那、江島千鶴
事務局 前田、三浦、鈴木、井上

欠席者 委員 齊藤滋史、広報・渉外委員長 石井繁紀

<配布資料>

資料1-1: 令和5年7月号台割

資料1-2: 7月号 表紙候補写真の説明

資料1-3: 表紙候補写真画像

資料2: 令和5年8月号台割

資料3-1: 令和5年9月号台割

資料3-2: 特集案 カーボンニュートラルの実現に向けた
ZEBの推進(続編) (ジェイクリエイト提出)

参考1: 「単位会からの風」掲載予定リスト

参考2: 令和5年度 年間台割表

議 事

1. 直近の会誌(5月号・6月号)の掲載内容についての意見交換
会誌の掲載内容について、各委員より感想等を述べた。

<5月号>

◇表紙

- ・木造建築の温かみが伝わる表紙だった。

◇特集 中高層木造の可能性

- ・よくまとまっていて充実した特集だった。
- ・これからの木造建築の見通しがはっきり書かれた寄稿文だった。

た。

- ・P. 6のポジショニングマップに、事例紹介された建築物がもっと掲載されていると、総論と各論が繋がる親切的な構成になったと思う。
- ・Port Plusの写真や図面が分かりやすかった。
- ・2025年には4号特例に係る法改正が施行され、小規模の木造建築でも構造計算が求められるようになる。その点を今後コラムなどで触れるとよいと思った。

◇単位会からの風

- ・話題が豊富でよかった。
- ・上限の文字数が少なく感じるので、今後は状況を見ながら1頁2会掲載としてもよいのでは。

◇単位会だより [ブロック協議会編]

- ・現在、中四国ブロックも全国大会の青年話創会にあわせた青年部会設立に向け準備を進めている。設立後は今号のように紹介したい。

◇賠償責任保険NOTE

- ・結露の問題については、外気温の上昇などによりこれまでの仕様で対応できなくなることが予想されるため、別途特集が組めればと思う。

<6月号>

◇特集1 光の装飾——ガラス

- ・寄稿は「日本の近代建築にみるガラスの歴史」というタイトルだったが、どちらかというとガラスの開発に関する内容だったので、近代建築の中でどのようにガラスが使われたかが書かれているとよりよかった。
- ・歴史的な経緯が分かる寄稿で勉強になった。
- ・ガラスメーカーとガラス加工メーカーの違いにも言及されているとよかった。
- ・コラムで触れているスタンドグラスは、それだけで特集が組めるようなテーマだと思った。
- ・スタンドグラスのコラムタイトルに2人のパイオニア(宇野澤、小川)の名前まで含まれているとより分かりやすかった。

◇特集2 第45回建築士事務所全国大会(鳥取・島根大会)

- ・大会が楽しみになる内容だった。
- ・2014年11月号の特集「山と建築」でも取り上げられた三佛寺投入堂についての記述がありよかった。

◇BOOK REVIEW

- ・このように本を紹介してもらえるのはよいことだと思う。仕事のモチベーションを上げるきっかけ作りにも繋がる。

◇美術館・博物館巡り

- ・東京国立博物館を取り上げたが、第二弾の用意もあるので今後掲載したい。
- ・紙面に対し、取り上げた建物が多かった印象。一棟一棟詳しく触れてもよかった。

◇青年話創会2022レポート

- ・今後「単位会からの風」の報告内容と重複する可能性があることに留意したい。

◇編集後記

- ・Chat GPTを使用しており興味深かった。

◇その他

- ・「単位会からの風」が休載していたが、できれば連続で紹介してもらいたかった。

2. 7月号の編集状況の報告

ジェイクリエイトおよび事務局より、7月号の編集状況について台割に基づき説明がなされた。(資料1-1)

◇特集「歴史的都市で創る」

- ・前回委員会ではタイトルを「古都で創る」としていたが、「古都」は古都保存法で指定された地域に限られるという用語的な制限があり、特集ではそれ以外の地域にも触れることから、「歴史的都市で創る」に変更した。
- ・古都保存法の理念を継承しながらのまちづくりについて、國學院大学教授・西村幸夫氏が執筆する。
- ・事例紹介は、奈良県明日香村、京都府宇治市、神奈川県鎌倉市を取り上げる。

◇その他の主な記事等

- ・「全国大会連動企画 見どころ見聞録」は、島根県の見どころ等を掲載する。

- ・「単位会からの風」は、記事がより目に留まり易くなるよう、今月号から掲載場所を原則編集後記の前に固定する。
- ・前回委員会で確認されたとおり、賛助会員2口加入の特典として、年に一度福井コンピュータアーキテクト(株)の広告を無償で掲載する。なお、同社のほかにも新たに2口加入の申し込みがあったため、同様に広告を無償掲載する予定である。
- ・表4は、6月号と同じく全国大会の案内を掲載する。

◇表紙の選定

- ・ジェイクリエイトより4枚の候補写真が挙げられ、1番・愛媛県大洲市の城下町の町並みの写真を選定した。(資料1-2・1-3)

3. 8月号以降の特集等の確認、検討

ジェイクリエイトおよび事務局より8月号・9月号について台割案に基づき説明がなされた。

<8月号> (資料2)

◇特集「『祭り』の建築術

- ・「山・鉦・屋台・山車」などをつくる技術と建築との共通点について、民俗建築学の観点から京都産業大学教授・村上忠喜氏が執筆する。
- ・大船鉦の復興と設計について、末川協建築設計事務所・末川協氏が執筆する。
- ・鉦・山車の材料調達について、コラム形式で紹介する。
- ・特集記事では神輿については触れられないが、「祭り」といえば神輿を連想する地域(東京など)もあることから、タイトルの変更を検討する。(「祝祭×建築」等)

◇その他の主な記事等

- ・「全国大会連動企画 見どころ見聞録」は、鳥取県の見どころ等を掲載する。
- ・「日事連発信」では、大阪で開催されるマロニエBIMコンペティションの募集記事と、住宅金融支援機構適合証明技術者の登録受付案内を掲載する。
- ・「編集後記」は、宇塚副委員長が執筆する。(当初8月号荻窪委員長、9月号宇塚副委員長を予定していたのを交替)

<9月号> (資料3-1、3-2)

◇特集「カーボンニュートラルの実現に向けたZEBの推進」

- ・カーボンニュートラル宣言において建築に期待される役割とZEBの現状・ロードマップについて、早稲田大学教授・田辺新一氏が執筆する。
- ・事例紹介は、品川区立環境学習交流施設と須賀川土木事務所庁舎を取り上げる。
- ・紙面の都合上、9月号では多くのZEB事例が紹介できないことから、12月号で9月号の続編となるZEB特集を掲載する。記事同士の連続性を持たせるため、各事例のポジショニングマップを掲載し、どちらの号で紹介するか示すこととする。

◇その他の主な記事等

- ・「日事連建築賞作品紹介」は、前回から間隔が空いたが、ツバメアーキテクトのBONUSTRACKを掲載する。
- ・「編集後記」は、荻窪委員長が執筆する。
- ・表4の掲載内容は今後検討する。

○2月号、3月号

- ・次回委員会で特集テーマを決定する。

次回委員会：令和5年8月4日(金) 14:00~16:00

■第1回日事連建築賞選考委員会 議事概要

日時 令和5年6月23日(金) 13:00~15:15

場所 日事連会議室

出席者 委員長 松村秀一

委員 石坂聡(代理：野口雄史)、伊藤香織、

加茂紀和子、中谷正人、原田真宏、丸川眞太郎

特別出席 児玉会長(審査前退席)

事務局 前田、三浦、中村、井上

<配付資料>

資料1：日事連建築賞選考委員会委員名簿

資料2：日事連建築賞募集要項

資料3：単位会応募状況と第1次審査作品数

資料4-1：応募申込一覧表(申込書及び作品説明書)

[一般建築部門]

資料4-2：応募申込一覧表(申込書及び作品説明書)

[小規模建築部門]

資料5：令和5年度日事連建築賞のスケジュール等について

参考：昨年度の審査報告（会誌「日事連」2022年10月号）

議事に先立ち、児玉会長および松村委員長より挨拶があり、委員の自己紹介を行った〔資料1〕。

<議事>

(1) 募集要項について

事務局より、本年度の募集要項について説明があり確認した〔資料2〕。

(2) 今年度の応募状況について

事務局より、本年度の応募状況について報告があった〔資料3〕。

○1次審査応募作品数

29単位会、169作品 内訳：一般建築部門72作品、
小規模建築部門97作品

○2次審査応募作品数

29単位会、55作品 内訳：一般建築部門25作品、
小規模建築部門30作品

(3) 現地審査対象作品・受賞候補作品の選考

書類審査後、記名方式により各委員が一般・小規模建築部門各9作品ずつ投票を行った〔資料4-1、資料4-2〕。協議の結果、一般建築部門5作品、小規模建築部門4作品を現地審査対象作品として選出し、その他、補欠を含め一般建築部門5作品、小規模建築部門5作品を受賞候補作品として選出した。

(4) 現地審査選考方法およびスケジュールについて

事務局より、現地審査選考方法やスケジュールについて説明があり、確認した〔資料5〕。

現地審査期間：7月3日（月）～8月9日（水）（最終日は、第2回日事連建築賞選考委員会開催予定日）

(5) その他

事務局より、次回委員会での受賞作品内定後に、委員長の審査講評および委員のコメントを執筆いただきたいとの依頼がなされた〔参考〕。

■第4回 青年部会連絡会議 議事概要

日時 令和5年5月15日（月）15：00～17：10

場所 日事連会議室

出席者 主査 本澤 崇

副主査 東山 圭

委員 宮崎 勲、出村洋一、奥村健太、村田正道、
岸本章宏、山室昌敬

担当副会長 上野浩也

オブザーバー 小谷真一

事務局 前田、伊東、松谷、井上

議事に先立ち、上野担当副会長より、以下の趣旨の挨拶があった。

限られた時間ではあるが、今回は対面での開催であり、有意義に議論をしてほしい。

10月には鳥取・島根大会に併せて青年話創会が開催されるが、中四国ブロック所属の村田委員をはじめブロック内でのサポートが必要である。

議 事

(1) 青年部会連絡会議の今後の活動について

本澤主査より、資料1によって青年部会連絡会議の今後の活動について次の説明がなされた。

各ブロック協議会において青年交流組織の設立について前向きに捉えた動きに繋がっているが、現時点でブロック・単位会内に100%青年部会設立には至っていないため、設立に向け継続して情報共有について検討する必要がある。

また、2月に開催された近畿ブロック協議会青年部会設立記念式典の際、児玉会長よりブロックでの組織の設立ができている中、新たな物を目指してはどうかという趣旨の発言がなされたので、それを踏まえて本連絡会議において、現在の活動実態に即し、次へのステップアップを目指す仕掛け等を検討したい。

①単位会の青年部会等を超えた連絡・交流について

各委員より所属ブロック協議会の青年部会等の活動状況等について報告がなされた。

(北海道東北ブロック)

- ・ブロックとして設置はされており、年1回単位会の部長が集まることとしているが、コロナ禍で開催できなかった。活動休止中は、各単位会の青年部に活動費として予算が配分された。今年度は再開予定としているが、具体的な開催日等は決定していない。

(関東甲信越ブロック)

- ・3月29日にWeb青年交流会を開催した。協議会において「青年交流委員会」の設立が承認され、設立準備にあたっては東京会の青年部会が当面幹事役を務める。東京会としては、来年7月の立上げを目標としている。

(東海北陸ブロック)

- ・ブロック会長会議と同日に各単位会の青年部会等の担当者が集まるという話は出ていたが、その後話が進んでいないため、福井会から提案していこうと思う。

(近畿ブロック)

- ・2月18日にブロック協議会青年部会設立記念式典を開催した。明日5月16日に1回目の会合を開催し、令和5年度の事業計画を協議する予定である。また、奈良会では5月の総会において青年部会が設置された報告があったほか、京都会を中心に青年が集まれる交流会を8月に開催することで検討している。

(中四国ブロック)

- ・4月19日にブロック内の青年部会を立上げた。鳥取・島根大会はブロックのバックアップが不可欠であり、準備を進めていきたいが、何のために青年組織を作るのかという疑問を抱えている者もあり、ブロック内でも青年部会のあり方には温度差がある。

(九州・沖縄ブロック)

- ・6月に青年部協議会を単位会執行部が集まるブロック協議会と併せて開催予定としている。年1回開催が定番化し今回で6回目となるが、交流のみであり、青年部として何か活動しようというところまで至っていない。現在、1単位会2名まで協議会が旅費を負担しているが、規約の作成

は必要である。各ブロックで活動するには、旅費の負担をどうするかが課題であろう。

②現在の活動実態に即し、ステップアップを目指す仕掛けについて

本澤主査より、改めて新しい組織を構築するには時間的かつ予算的に困難なので、現時点まで継続している青年話創会の場の一部を借りて問題提起の場とできないか検討したい旨の発言があった。

また、会議後半から鳥取会の小谷氏がオブザーバーとしてWeb出席し、鳥取・島根大会の青年話創会における準備・進捗状況等について報告がなされた。

主な意見等は次のとおり。

(鳥取・島根大会の青年話創会に関すること)

- ・鳥取会及び島根会には青年組織がなく、当初は青年話創会を開催することを想定していなかったが、ブロック内の協力を受けながら準備を進めている。
- ・青年話創会へのバックアップをブロックとしてどの範囲まで行うかが見えていない。
- ・マンパワーの問題がある。ブロック内の単位会の協力をどこまで得られるか。
- ・執行部が青年部会の必要性を理解しておらず、論点や出発点等まだ足並みが揃っていないことが問題
- ・鳥取県の建築士事務所の経営者は年齢層が高く、人口は少ない。事務所協会と建築士会を掛け持ちして活動しているケースが多く、青年組織の必要性を余り感じていないようである。青年部を作り、活動を行うイメージは持ち合わせていないと思う。
- ・執行部と青年メンバーとの温度差を感じる。平行線なので、広島会としての関わり方について会長へ確認したい。
- ・来年以降の青年話創会においても同様であり、ブロック内でのフォローの仕方が課題である。
- ・仕掛け作りについてはすぐに決定できないが、テーマを決めて、青年話創会に盛り込ませてもらえたらよい。
- ・青年話創会を準備することは大変だが、毎年実行している

ことは基本的に同じであり、それに向けてテーマを決めて議題内容が決まれば、あとは流れていく。一斉にできることは何かあるか議論をしたらどうか。

- ・児玉会長は「集まるだけでなく、新しい次のステップへ」という考えのようだが、個人的には、まだ全ての単位会やブロックにおいて青年組織の設置ができていない中、ブロックで行ったことを報告し、そのうえで全国一斉に何ができるかだと思う。今年度のテーマだけを決めて、そのテーマに則ったブロック・単位会の活動をどうしていくか、そのような形で土台を固めていき、その次の代に繋げていくのがよいのではないか。
- ・我々世代で全国的に同一課題に向き合うことを目指して、青年話創会で本連絡会議に30分程時間をもらい検討できればと思っている。
⇒ブロック協議会の青年部会も近々開催されるので、本連絡会議で提案されたことを報告し、検討したい。

協議の結果、鳥取・島根大会の青年話創会の検討状況について、後日村田委員から報告することとした。

(配付資料)

第3回議事概要

資料1 青年部会連絡会議の今後の活動について

別添1 関東甲信越ブロックWeb青年交流会 議事録

別添2 近畿ブロック協議会青年部会設立記念式典実施報告書

■主な行事予定

令和5年

7月	19日	法制度対応特別委員会
	25日	事務局連絡会議
	31日	青年部会連絡会議
8月	3日	事務所登録電子化対応WG
	4日	会誌編集専門委員会
	9日	日事連建築賞選考委員会

令和5年6月末 会員・構成員異動報告等

1. 期間 令和5年6月1日～6月30日
 2. 会員在籍 正会員 47団体 構成員 14,362事務所
 賛助会員 6社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道	+ 1	984	4,216	23.3%	+ 3	285	29.0%
青森		163	902	18.1%		44	27.0%
岩手	△ 1	272	921	29.5%		74	27.2%
宮城	△ 2	328	1,865	17.6%	+ 1	86	26.2%
秋田	△ 1	140	1,016	13.8%		49	35.0%
山形		207	1,084	19.1%		57	27.5%
福島	+ 1	237	1,467	16.2%		70	29.5%
茨城		429	1,875	22.9%		147	34.3%
栃木	+ 2	164	1,293	12.7%		76	46.3%
群馬		185	1,649	11.2%		88	47.6%
埼玉	+ 1	438	4,538	9.7%		131	29.9%
千葉	△ 2	338	3,276	10.3%		110	32.5%
東京	+ 7	1,620	14,649	11.1%	+ 3	612	37.8%
神奈川		748	5,834	12.8%	+ 1	229	30.6%
新潟		305	2,182	14.0%		132	43.3%
長野	△ 1	382	2,027	18.8%		102	26.7%
山梨		104	799	13.0%		13	12.5%
富山		293	1,127	26.0%	+ 1	65	22.2%
石川	+ 1	311	1,245	25.0%		64	20.6%
福井	△ 5	197	938	21.0%		54	27.4%
岐阜	+ 1	117	1,512	7.7%		37	31.6%
静岡	△ 1	380	3,002	12.7%		124	32.6%
愛知	+ 1	500	4,953	10.1%		138	27.6%
三重		182	1,174	15.5%		64	35.2%
滋賀		185	1,096	16.9%		40	21.6%
京都		369	2,163	17.1%		107	29.0%
大阪		803	6,291	12.8%	+ 3	243	30.3%
兵庫	+ 1	353	3,511	10.1%	+ 1	97	27.5%
奈良		104	880	11.8%		25	24.0%
和歌山		110	714	15.4%		23	20.9%
鳥取		116	477	24.3%		53	45.7%
島根	+ 2	115	606	19.0%	+ 1	53	46.1%
岡山	+ 9	373	1,413	26.4%		69	18.5%
広島		343	2,244	15.3%		148	43.1%
山口	+ 1	104	990	10.5%		38	36.5%
徳島		112	810	13.8%		19	17.0%
香川		87	1,011	8.6%		19	21.8%
愛媛		192	1,167	16.5%	+ 2	51	26.6%
高知		137	639	21.4%	+ 1	34	24.8%
福岡		469	3,341	14.0%		180	38.4%
佐賀		179	586	30.5%	△ 1	45	25.1%
長崎	△ 1	235	738	31.8%		45	19.1%
熊本		228	1,388	16.4%		96	42.1%
大分		148	829	17.9%		47	31.8%
宮崎	+ 1	113	1,037	10.9%		44	38.9%
鹿児島	△ 2	280	1,146	24.4%		86	30.7%
沖縄	△ 1	183	1,300	14.1%		68	37.2%
計	+ 12	14,362	97,921	14.7%	+ 16	4,481	31.2%

※建築士事務所登録数(B)は令和4年4月1日時点の数字である。